未来の靴職人育て

地場産業 プロに技学ぶ

府立西成高（大阪市西成区）に、全国でも珍しい靴作りの部活動が発足した。同区は革靴作りをはじめとする皮革産業が盛んな地域。「こだわりの一足を作り、百貨店の展示会に出したい」。初代メンバーの１年生３人は地元の職人に教わりながら、靴作りに真摯（しんし）に向き合う。

名称は「Nishinari Shoe Club（NSC）」で、吉田天空さん(16)と竹田智輝さん(16)、峯聖也さん(15)の3人が所属。毎週金曜日の放課後、学校近くの工房「西成製靴塾」を拠点に活動し、塾長の大山一哲さん(50)が技術や楽しさを伝えている。

12月上旬、工房にトントントンと心地よい音が響いた。部員たちが一枚の革を靴型に合わせて引っ張り、くぎで固定する「つり込み」と呼ばれる工程に挑戦。「革が硬く、力がいる」と口ら、革にしわがよう丁寧に作業さんは「楽しいに挑戦したい」だ。大山さんはにしては出来過からが本番」とせた。

地域でつむい革産業の歴史を知ってほしいんと同校が昨夏向けのワークシ開いて部員を集にこぎ着けた。は「物作りに没間を味わい、魂靴を作る喜びをしい」と話す。

新部員も募集

兼部可能で、員も募集していの目標は、今春内の百貨店で開示会への出展だ肥下彰男教諭(69)域と学校をつなしたい。将来的にも取り入れたを込めた。

「西成製靴塾」で大山一哲さん（中指導を受ける府立峯聖也さん（右）＝大阪市